

【今月の言葉】大型の台風が来る、昭和三四年、伊勢湾台風なみの超A型級というから怖い。近くの学校や幼稚園などが台風で休校となった。山上にある阿列布も休校を断った。しかし、当日は、朝から全職員が出勤し台風で休校したが、午前中は強風でときどき雨と降る場面もあったが、あとは台風一過、皿のような天候になった。お陰で？残務整理、行事の打合せ等の会議ができたものの、報道に左右され休みにした私の判断はちよと甘かったね。深謝。【文/表紙 遠藤節子】



【絶対の基本理念】最終目標であるホスピス建設に向け、新たな歩みを踏み出した私たちの絶対の基本理念として明文化し、支援の拠りどころと致します。

無私(私が、私のがの心のないこと)
愛(大切に作る心、思いやる心)
内省(深く自分をかえりみること)

9
月号

2009年9月15日発行
VOL.11 NO.9
(通巻107)

新厚労大臣は長妻昭氏

TSK おりいぶ人



社会福祉法人 ^{あいとく} 愛篤福祉会・^{おりいぶ} 工房阿列布
〒973-8407 いわき市内郷宮町峰根 65-187
TEL.0246-36-3944 FAX.0246-36-3922
e-mail: olive-f@amber.plala.or.jp

千
草
群
像

救済大臣?

遠藤節子 (工房阿列布管理者)

新政権誕生と同時に「障害者自立支援法廃止」を長妻厚生労働大臣から発表された。

今後は「障害者総合福祉法」(仮称)となるようだが、どのような内容になるのか。

時の政権下でいつも翻弄する障害のある人たち、その声が届いて廃止になったと思う。

しかし、声の代弁者は学識経験者、障害区分の軽い方々、支援者・事業所の声ではなかったか。何度も変わる障害者福祉の法律、その中で埋もれる「声なき声」もある。言葉にできない沈黙の声、叫びの声、表現しない声、ただ泣く声、怒っている声、繰り返す声、皆違う声だが夫々に表現されている声がある。この声は誰が反映するのか、今は障害者の自己決定、選択の時代となり「親」の意見は子どもを「親」の言いなりにする行為と取られがちだ。

それ故親の意見は有って無いようなもの。しかし、わが子のことを一番把握しているのも「親」である。「本人の自己決定、選択」に法はどのような責任を負うのだろうか。現行法は施設から地域移行が主流となっているが、家族は熟してもいない地域に障害者を送り出し、微に入り細に入りサービスの対価として料金が発生するサポート体制にむしろ不安さえ持っている。対価に値するサービス供給が本当にされているのか、障害者サービスが商品化されているとも言われる今の福祉に、長妻厚労大臣はどのような施策を出してくるのか、大いなる関心を寄せている。

この国に暮らし、誰かの支えなくしては生き抜けない心身障害者、高齢弱者が「幸せ」と感じないようでは政権交代の意味がないといわなければならない。

TSK
おりいぶ人
1部 ¥100
(会員は会費に含む)

毎月15日発行

編集者 〒973-8407 福島県いわき市内郷宮町峰根65-187
社会福祉法人愛篤福祉会 工房阿列布

発行所 〒981-0907
宮城県仙台市青葉区高松1-4-10
東北障害者団体定期刊行物協会

おりいぶ1号館 〒970-1151 いわき市好間町下好間字鬼越24-10 TEL.0246-36-3976 FAX.0246-36-3986
茶房おりいぶ 〒970-8026 いわき市平字中町7-2 TEL.FAX.0246-25-3977

おりいぶ後援会は、工房 阿列布を市民の立場から物心両面で支援するボランティア団体です。

社会体験活動



九月上旬に行った社会体験活動では、どのグループも小名浜方面へ出掛けることになりました。アクアマリン水族館へ行ったり、小名浜美食

ホテル内のレストランで食事したりと各グループに参加した利用者さんは思い思いに一日を楽しんだ様です。



インフルエンザ対策



全国的に対策が急がれている新型インフルエンザですが、阿列布でも、玄関にアルコールスプレーを設置するなど対策を行っています。例年秋から冬にかけてが、インフルエンザのピークとのこともあり、今後の推移を見ながら十分な対応が出来るようにしていきたいと思っています。



来所される皆さまにもご協力いただくことがあるかと思えます。よろしくお願ひ致します。

中学生の訪問



中学校の総合学習の一環として、内郷三中の生徒さん五名が福祉施設の仕事を体験するために、訪れました。

利用者さんといっしょに作業を一緒に行い、手早く進める利用者さんの作業ぶりや集中力に、大変驚き、とてもびっくりしていま



保護者の皆様が見学

平養護学校に子供が通っている保護者の皆さまが施設見学の為に訪れました。

皆さまからは、肢体不自由児(身体障がい)の方々の現状に関するお話があり、「養護学校を卒業してから行く場所がない。」「医療的なケアを行ってくれる事業所が少ない。」など阿列布でも支援の届かない身体障がい分野のお話を伺う良い機会になりました。



また、今後「親亡きあとの施設建設にあたり医療分野との提携や老化に伴う身体機能の衰えにも 対応するための支援体制の構築が急務であること」を感じました。

厚生労働大臣は長妻昭氏

9月16日 鳩山政権が発足しました。厚生労働大臣は、ミスター年金!長妻昭氏。年金問題のエキスパートは、はたして障がい者福祉もエキスパートに成り得るのか注目です。

また、民主党では「障害者自立支援法」をやめて、「障がい者総合福祉法(仮称)」をつくり、障がい者福祉を見直すと言っています。どのようなスケジュールで直しが行われるのか、この点にも注目していきたいです。

芋煮会のご案内

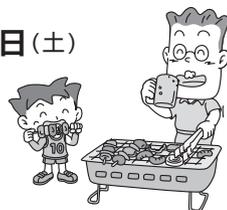
今年度より、夏の納涼祭に替えて芋煮会を開催することになりました。皆さまから頂いた野菜などを使って、豚汁やバーベキューを行い親睦を深めたいと思いますので、ぜひご参加ください。

日時:平成21年10月31日(土)

正午より

場所:工房阿列布 駐車場

参加費:無料



寄附者名簿 (物品寄附含む) 平成21年9月

鈴木淳子様、金田静子様、星次男様、
瀧本陸三様、菅野モト子様、草野定男様
長谷川雅子様、平養護学校保護者様、
岡田綱一様